

## 小中高連携について

### 1 今後の児童生徒数の減少

- 小学校児童数 H31 2,113名 → R7 1,783名 330名減
- 中学校生徒数 H31 1,130名 → R7 1,040名 90名減

### 2 小中高連携の現状

- 「長崎っ子の心を見つめる教育週間」等の行事の際、案内状を送付し、校種が違う学校の授業を参観する。
- 口加地区中高連携によって、加津佐中学校、口之津中学校、口加高等学校の教職員が授業を参観したり、情報交換を行う。
- 有家・西有家地区中高連携によって、有家中学校、西有家中学校、翔南高等学校の教職員が授業を参観したり、学校行事に参加したり、情報交換を行う。
- 公民館や中学校での高等学校説明会に加えて、中学校からの要請に応じて、高等学校の学校説明を行う。
- 入学前の6年生を対象に中学校で説明会を開催し、授業を参観したり、校舎を見学したり、中学校の学校説明を行う。
- 中学校・高等学校の校長と市教委で話し合う機会を設定し、情報交換を行う。
- 市内中学校英語暗唱大会における審査員を高等学校の英語教員に依頼する。

### 3 中学校卒業生の進学先

- 中高連携を推進した結果、市内2校への進学率が大幅に向上した。  
\*平成29年度 23% ⇒ 平成30年度 33%
- 市内高等学校以外の、島原市・雲仙市の公立高等学校及び私立高等学校等へ進学する生徒が多い。
- 遠距離の高等学校へ通学する生徒が多い。
- 長崎市、佐世保市等や県外の下宿等が必要な高等学校へ進学する生徒もいる。